

郡山市・北天寮、いわき市・希望の杜福祉会 視察メモ

日時：平成23年9月27日（火） ふらっと8時発、21時30分着

視察者：金井（夕映えの郷）、村山（そら倶楽部）、田中（梨の里）、久保田（リンクinひだまり）、銅谷（あどばんす）、杉山（やすらぎ）、田邊（こまくさ）

北天寮

対応者：施設長 飯野様

放射能関係

- ・雨が降って、土の中に入っている状態。表土を削って集め、家屋の洗浄をするが、汚染土の捨て場がなく、グラウンドの端にブルーシートを乗せている。8～15シーベルト超えるところも。
- ・畑は叶わない。原木のあったしいたけは食べれない。耕すのもやめなさいとの指導。
- ・草むらをかまっただけの外部被ばく、土が舞い上がって吸い込むことでの内部被ばくがあり、注意が必要で庭いじりしていない。草むしりを作業所に委託しているが、きちんとした格好でするわけではないので心配。
- ・除染の話一切なし。町内や通学路どうこうという話もない。
- ・12日には郡山の一番大きい総合病院で会議、「メルトダウンだ、ヨウ素剤配ろう」と。ヨウ素剤が効いているうちに逃げなさいというもの。医者は、いわきに行けば行くほど減っている。医者や看護師が辞めていく。南相馬の雲雀ヶ丘病院はようやく再開。
- ・県産梨の線量の問題あった。早場米（会津）は出なかったが、郡山は田んぼあたりで0.4～0.7マイクロシーベルトと高い。台風で倒れ、土にくっついてしまったので、どうなるかわからない。
- ・怖いのは子供たち、妊産婦さん。子供は1割減った。引っ越しで県外など行かれる方あり、福島全体で人口は1万減った。
- ・子供たちの甲状腺のがんなど、ダメージが心配。福島全体が実験材料。20歳以下の方だけ健診を受けることができるようになったが、必要最小限。
- ・福島市の市民はCT40数回の被ばく、郡山20回程度の被ばくと言われる。何か月の間にCTをそれだけ受けることはないだろう。最初はレントゲンや胃の透しだと数字がもっと大きく出してしまうので、CTにしているのでは。

風評被害

- ・キュウリも売れない。ハウスで作ったものは出ているが、他県産よりずっと安くなってしまふ。
- ・いわき原発の近くで活動していた作業所被災し、本部がいわきで助かったようだが、GHを作ったりして1億の赤字だとのこと。京都のほうで製品（豆腐）を買ってくれるところがあって助かったとのこと。
- ・福島といわきナンバーの車は来るなという話があったり、花火は上げるな（2か所）というニュースもあった。花火は鎮魂の意味があるのに・・・

避難生活等

- ・家族単位で避難した方、場所が変わって認知症がひどくなって、病院に入院になったケースあった。

- ・行政にも、寮で引き受けますと言ったが、全く来ない。県庁にも行ってきたが連絡なし。どうなっているかわからないとの返事。
- ・精神だけはぽつんと取り残されて、注目されない。当初、食糧・水・ガソリンが不足した。行政は冷たかった。各施設も自分たちだけで精いっぱいだった。

行政等

- ・市は線量計を貸してくれない、ツタヤ（民間）が貸し出ししている。線量も細かく発表せず、合同庁舎の1メートルの高さのもののみ。
- ・郡山市で内部被ばくを測る機械、除染作業の予算、ようやく議会を通したばかり。
- ・避難所に障害の人はいないと言い切っていた。
- ・P協会で避難所のカウンセリングを進めようとしていたが、とうとう動かなかった。
- ・福島は精神については下から全国ナンバー1だと思う。県庁に行くと、係長クラスが「どうも申し訳ありません」と。精神をやってないのわかるから。今の係はいい方で、話を聞いてくれるし、勉強してくれる。
- ・郡山市は保健所に丸投げで、いわゆる旧体系のような感じ。

豪雨被害

- ・先日の台風で川が3本反乱、600～700戸が床上浸水、仮設住宅も浸水した。泥は水から沈殿して線量が高くなる。線量が高い市街地、高台にある高級住宅地の貯水池の水が大雨であふれた。用水路に流れ、下にはスーパー・住宅・幼稚園、みんな冠水した。川、排水ポンプが作動せず、あふれ出た、泥が被った。

福島の協議会

- ・つばさ会（県家族会連合会）が「どうなっているんだ」と。
- ・郡山コスモス会が事務局をしている。法律が変わるときに、困った困ったと大勢集まった。自立支援法が始まる時に、「施設じゃなくなったんだからやめる？」という話が出たが、そのまま集まっていなかった。
- ・協議会の再開について県内の事業所に電話した。電話するところ、全員が全員再開してほしいと。新精社協の後押しもあり、おかげさまで、本日（9/27）の午後集まることになった。自分とこだけがいっぱいいっぱい動けない、という雰囲気だったが、いつ動くんだという話をしたら、そうだねと。

利用者

- ・寮を退寮していく利用者のほとんどがアパート、40人くらい居住。GHに行きたいという人はほとんどいない。アパート家賃を3万にまけてもらっている。セコムや家電も入って3万というところもあり、大家さんに理解いただいている。
- ・GHにいる人は「GHはごはんある、アパートはたいへん」と言う。それでもアパート選んでいく利用者には、生活訓練施設が一生懸命支援する。残っている利用者は「(そんなに外の人を支援して) あたしら、どうしてくれるんだ」と。地域移行は、当事者が望む形をいかに示すかだと思う。
- ・なんで相談支援や地活を活用しないんだと、相談支援事業所より言われた。それもそうだ、そち

らへつなげている利用者も徐々に増えている。

- ・OB／OG会で交流、地震の際大丈夫ですかと電話くれたのは家族ではなくOB／OG会のメンバーだった。

新精社協からの応援

- ・親の会は「気持ちが一番」と言っている、どうか無理なせずに。
- ★新精社協→線量計を寄付したらどうかとの案がある。国外品はよくないので、燕三条の企業で製造された、信頼度は高い製品を考えている。
- ・就労系で外で作業するところは喜ぶと思う。
- ★新精社協→いわきは風評への対応を考えている。福島の協議会でニーズを出してもらえるといいかなど考える。
- ・本日の協議会の集まりで、各事業所に伝えたいと思う。

希望の杜福祉会

対応者：事務局長 柳沼様

授産事業統括責任者 鈴木様

法人・事業所の概要

- ・ホームページ <http://www.kibounomori.or.jp/> を参照
- ・いわき市と檜葉町に事業所を持つが、檜葉町は避難区域のため事業所は閉鎖、8月1日からいわき市にて臨時営業を再開している。
- ・南相馬より南側の小さい町には送迎をし、檜葉の事業所を利用してもらうなど、大部分を当法人がカバーしていた。

被災・避難・運営の状況等

- ・職員が方々に散り、町と共に避難された方、自主的に避難された方、一時避難していた方など。
- ・檜葉のGH利用者は、12日の原発爆発の翌日にいわきの避難所に入ったが、慣れない場所で具合が悪くなる者もあり、14日けやき共同作業所を避難所として開放し、避難してきた。いわきも水がなかったので、いわきのGH利用者もけやき共同作業所に避難させた。職員が毎日、食事の世話、水の確保、災害対策特別者に指定してもらいガソリンを確保。5月の連休まで続けた。
- ・下請け作業をしていたところは、材料を引き上げられてしまった。
- ・檜葉町の事業所の22年度後期分委託費や月々の給付費も入ってこないという状況。
- ・震災前の職員75、6名、現在は65名。常勤職員は全員働ける状況にしている。人件費はほとんど変わらない。
- ・水も出てきて、居住スペースも確保できた3月29日、GHの利用者はそれぞれの生活に戻り、作業所のスペースが確保されたので、けやき共同作業所（弁当・軽作業）を一番に再開した。
- ・4月1日には豆腐やドーナツの事業所が再開するなど、ほとんどの就労系事業所が動き始めた。
- ・その後利用者の動向を調べた。震災直後にほとんどつかんではいた。利用者にはいつでも利用できるよと案内したところ、5月には希望者は戻ってこれた。線量が高くない地域なので、安心して戻ってこれる状況を作れたのはよかった。
- ・新規で利用したいという人が増えた。
- ・檜葉の利用者も受け入れたが、事業形態が異なるので、授産と合わせて地活にも分散して日中活動するような状態を7月いっぱいまで続けた。檜葉と同じ状態でやってほしいというニーズから、8月1日より檜葉の2事業所を合体させた形で別の場所を借りてスタート。それまで間借りだった利用者は、自分たちの施設だという感じ。軽作業中心なので、もう少し広く活動できるかなという期待があった。費用は全部法人持ち出し（借入）。
- ・いわきの事業所の定員が100名に対し、180名くらいが利用。檜葉が34名定員のところ20名利用。合計で200名を超える利用者となっている。
- ・減算も考慮に入れつつ、ある程度シフト化して利用してもらっている。希望を受け入れたいが、多少ワークシェアリング的になっている。
- ・売り上げと工賃をきちんとしたく、この4月から授産統括を置いた。
- ・震災復興イベントに参加することから、苦手だった通販の開拓につながり、通販と店売りが半々になった。通販が伸びている状況。

- ・取っ掛かりは復興イベントだったが、リピートは美味しかったり安かったり、サービスがきちんとすることで出てくるので、授産の職員には徹底している。
- ・豆腐は地豆（三和の大豆）を使っているし、弁当も地産地消をうたっているの、そういった材料は大丈夫なのかという不安はある。

利用者の状況

- ・地震によって亡くなったり怪我したりした利用者は一人もなかった。
- ・ここら辺で一番大きな舞子浜病院が津波でダメになり、他の病院も。病院職員も避難し、薬がもらえない状態。3月24日に大阪の災害派遣医師団が来るとの知らせ、患者さんを連れてきてという話がある。薬ももらえるしみんなにも会えるぞとみんなに連絡したところ、60人くらいが集まり、支援物資も持ち帰らせたりでうれしかった様子。早く再開してほしいという機運が高まり、再開時には普通な様子で来る方が多かった。

地域の状況

- ・いわきの人口は他市町村からの避難者があり増えている。このような状況では、よほどのことがない限り避難指示は出ないだろうと思っている。
- ・海側に行かなければ全く普通な感じ。
- ・小名浜（港）はこの時期、サンマやカツオが水揚げされる。1回カツオが揚がったが、値段がつかず、以降二度と揚がらない。汚染された海でとったわけでないが、小名浜にあげられるとダメ。漁師さんは茨城や千葉で揚げる。風評の最たるもの。
- ・櫛葉には一時立ち入りで7回くらい法人が入っている。線量は1マイクロシーベルトない。福島市と同じくらい。
- ・医療は現在、ほとんどの病院が再開しており、心配ない。

ニーズ

- ・いわき地域を一括りにできない。他の法人さんは別の悩みを持っているはず。
- ・当法人の授産の事業所は出来高制ではなく、所得補償ということで時給を決めているため、せつせと売らなければいけない。当法人が協力していただいて助かることは、新潟で授産製品を販売してもらえること。
- ★新精社協→イベントシーズンでお祭りがあるところも。その時に売りたい場合は？
- ・ドーナツはデイリーで400個くらい作れる。1週間くらい前の注文であれば可能。宅配で代引きでも、振り込みの支払いでも大丈夫。定価ではなく仕切り価格（卸価格）で販売する。Win-Winの関係でいきたい。豆腐の通販も可能。注文書などは連絡いただければメールで送れる。
- ・本当は、一番ほしいのは食品検査の機械。400万円もする。

作業・経営について（参考）

- そもそものスタートは、受託作業（軽作業）からの脱却。受託はがんばっても月10万くらいの売り上げで、時給60円くらいにしかない。我々は300円払いたい。他の事業で利益確保しましょうと。
- 弁当事業は隙間作業。大きい弁当屋がしないことということで、1軒でも配達しましょうと。市の配食事業にものった。大口だけだと、企業がダメになったら共倒れ。価格競争には入らない。利用者があるから作業も作らないといけない。利用者が仕込みをきちんとやる。キャベツの千切り、ニンジンの皮むきなど、機械は使わない。
- 豆腐も、いい豆腐を作ってリピートを増やすためにがんばる。宮城の蔵王すずしろから教えていただいた。
- ドーナツは独立させようと思っている。前はおからドーナツなど作っていた。揚げたては確かにうまく、実演販売すると売れるが、冷めたらおいしくない。通販も無理で売り上げ増は見込めない。工夫する中で行き着いたのが焼きドーナツで、賞味期限も10日くらい。どこかに持って行ってもいいし、通販にも対応できる。作り立てより2日くらいのほうがおいしい。色々な味を利用者と考えながら作れるのもいい。
- パンプを色々なところで配って、そこの職員が注文を取りまとめてくれたり、豆腐では、京都の取引がなくなってしまったが、別のところが復興支援だということで買ってくれたりしている。
- 障害者施設の製品だからと言いつはできない。最初は買ってくれるが、うまくないとリピートはされない。安くないと買ってくれない。クオリティ、コストの面できちんとしていたいと思う。ようやく認知されてきた。
- 利用者のできるような作業にいかにか細分化してあげるか、生産技術力、製造技術力を考えないと。ただ作って売ればいいというものではない。
- 自立支援法前までは補助金で運営すればよかった。以降は経営。なくなったら困るのは利用者。経営することで利用者も職員もWin-Win。なかなかそういった業態はない。
- 施行された法律に逆らっても利用者が幸せになれるわけでもない。どうやったらよりよく使えるかを考えたほうが、我々には良い立ち回りではないか。
- 利用したい人に利用してもらおう。いっぱい大変だという考え方を換えさせた。送迎を充実させることで利用率は高くなった。来れば楽しい、また来たいという人が増えた。